令和６年９月 24 日

DI 調査結果（令和６年７月-９月期）

一般社団法人石川県鉄工機電協会

概況総括：『景況感は改善しているものの依然としてマイナス圏であり停滞が続いている。
来期についても改善が期待されるが懸念材料が多く不透明である』

【調査概要】

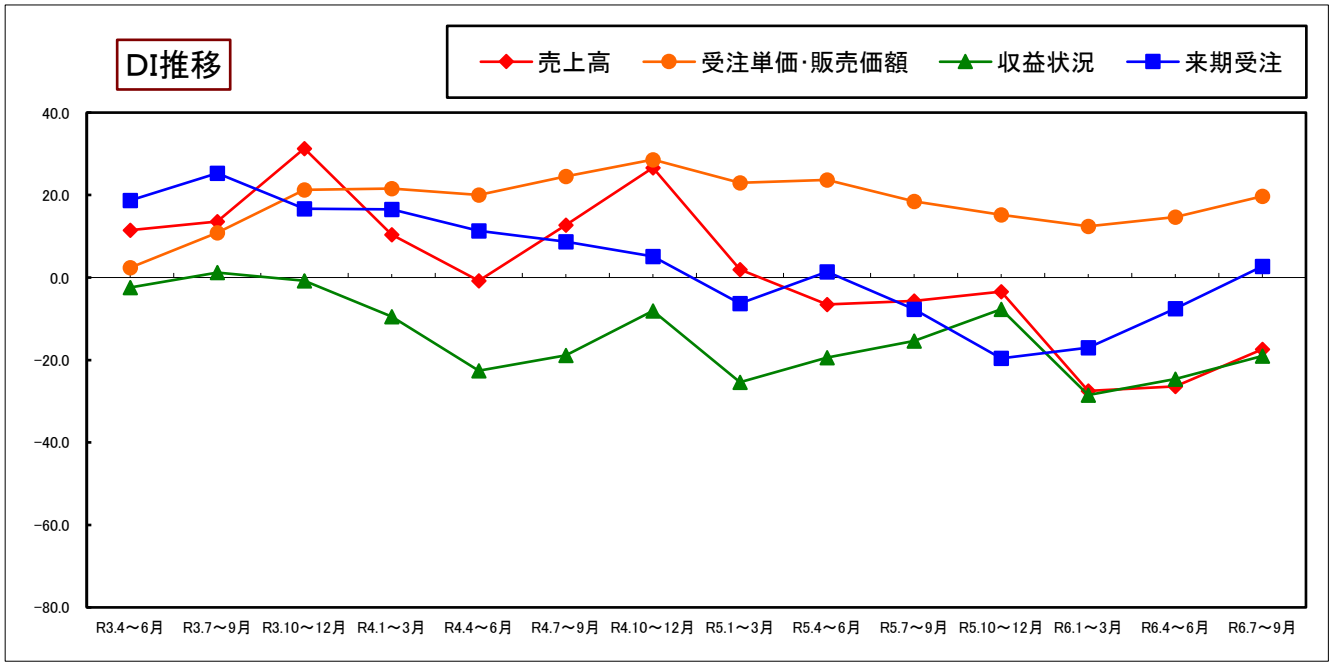
１．今期(令和６年７月-９月期)の業況調査 DI12 項目では、「受注単価販売価格」など４項目がプラス、「売上高」など８項目がマイナスとなり、10 項目が改善している。

２．現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの９項目では、

（１）景況感を端的に表す「売上高」は、▲17.4(前回▲26.4)と少し改善した。また高騰が続いている「原材料価格」も▲47.8（前回▲57.6）と改善し、「収益状況」も▲19.0（前回▲24.6）と改善しているものの、依然としてマイナス圏にあり、停滞感が続き厳しい状況が窺える。

（２）現場の繁忙さを表す指標では、「操業率」▲7.6(前回▲9.0)と改善しているものの、引き続きマイナス圏にあり、下振れ傾向が続いている。「受注残」10.1（前回 8.4）と上昇したが、「生産設備」▲1.7（前回 0.0）と、令和３年 1-3 月期以来 14 期ぶりにマイナスへ転じた。

３．来期については、「来期受注」2.7(前回▲7.5)と５期ぶりにプラスに転じた。しかしながら「来期採算」▲4.3（前回▲12.8)、「来期資金繰」▲3.9（前回▲8.3）と、改善しているものの、依然としてマイナス圏での推移であり、先行きについては不安感がある。

４.「企業経営上の悩み」については、「受注不安定」が 31.5（前回 39.8）と引き続きトップとなった。「人材不足」が 29.9（前回 26.5）と増加しており、自動化や省人化の取組みが急がれる。また、「採算」が 10.2（前回 7.5）と令和２年 10-12 月期以来３番目となり、受注の獲得に加え価格転嫁等の取組が課題となっている。

５．景況感は改善しているものの海外経済減速等の影響により停滞が続いている。また、依然として原材料、エネルギー関連価格の高騰が続いており、さらには人件費のコスト高など懸念材料が多い状態にある。来期については、改善が期待されるものの、長引くロシア・ウクライナ問題とともに、欧米や中国経済の動向が不透明なことから、不安感がある。